



未知の世界を
科学の力で探究したい

前列左から佐藤泰汰さん(生物)、中村由治さん(数学)、船越健太さん(数学)、中村元紀さん(物理) 後列左から後藤宗哉さん(化学)、小松原颯斗さん(地学)、荒木優太さん(情報)、青山和南さん(物理) ◆()内は科学の甲子園での担当科目です。

「情
報」はそうやって知恵をしぼる
ことでイノベーションも起こせ
る、これからの社会を彩ってい
く分野だと思っています。化
学の後藤宗哉さんは新しい知見
を身につけたとのこと。「化学は
勉強した人にしか分からない視
点があると思いました。一枚の
紙がCやOやHなどからできて
いるように、目の前のは漠
然としたモノではない、という
見え方になりました」。また、
今回のために地学を学んだメン
バーも、小松原颯斗さんは文系
からの挑戦でした。「僕は将来、

国際政治学を志したいと考えて
います。地学のように身近にあ
りながらも未知のことを探究す
る精神をいつか役立てられれば
と思います」。
一方、物理の二人は自らの適
性から将来をそれぞれに見据え
ています。「自分の信条は楽をし
たいということがまずあって、
物理は後々楽することができ
る公式を導くので信条に合うな
と(笑)。未来がどう動いてい
くのかも、公式を作ることわか
ると考えています」と青山和南
さん。中村元紀さんは将来は医
師を目指しているそうです。「物

高校生が科学の知識を競う「科学の甲子園」第11回全国大会に
山形県を代表して酒田東高等学校チームが出場しました。
全国666校のうち総合19位、数学分野で優勝に輝いた
3年生8人のチームメンバーに会いに行きました。

物理、化学、生物、地学、数
学、情報の6分野にわたって、
メンバー一人一人の知識を結集
させて競う「科学の甲子園」。
今年は全国から7千人余りの高
校生がエントリーしました。

酒田東チームのメンバーは、
探究科の同級生8人。県大会を見
事勝ち上がり、日々の課題や部
活動に加えて、大会の過去数年
分の難問に取り組み、各地の精
鋭たちと肩を並べました。「各自
の知識を生かして協力し合えた
大会でした。一つの分野だけで
なく幅広い知識を身につけて、
課題や問題に応用することが大
切だと実感しました」そう話す
のは、キャプテンを務めた佐藤
泰汰さんです。

全国の舞台上で発揮した
科学の眼と探究心

全国大会は各校を会場に、筆
記競技で行われました。「この
データをどう読むか」など思考
力を試す問題が多く、情報分野
の荒木優太さんは「脳細胞をフ

理は問題ごとに違うシチュエー
ションが用意されていて、全く
同じ解き方があてはまらないの
が面白いなって。患者さんそれ
ぞれの治療法の最適解を考える
ことに通じているようで、ます
ます頑張ろうって気持ちになり
ました」。
未知の未来を解き明かす
だから科学は面白い！
そして、全国1位の数学を担
当したのは、中村由治さんと船越
健太さんです。中村さんは大会
中、「試行錯誤しているうちにひ
らめきがあった」と喜んで話して



▲全国大会に向けて勉強を頑張った原動力は？の問いに、
全員そろって「打ち上げの焼肉！」と答えてくれました。



▲科学の甲子園では大学で学ぶような出題も。大会に向
けて山形大学農学部 鶴島朋之先生から講習を受け
ました。

くれました。「大会に出てあらた
めて、科学は社会の発展にも、自
分のやりたいことを実現するた
めにも必要だと感じました」。
船越さんは科学の魅力をこう語
ります。「自分の知識で自分なり
に考えて、問題が解けた時の違
成感や肯定感、それが喜びになっ
て次の問題につながっていくのが
理科科目の面白さだと思います」。
お互いの知識を敬い磨き合う
8人を見て、後輩たちがすでに
次の大会への出場を申し出てい
るとのこと。高校生たちの未知
への探究心は、明るい未来図を
描いています。